



Cisco IP Phone の設定

- [Cisco IP 電話の概要 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco IP 電話の設定タスク フロー \(1 ページ\)](#)

Cisco IP 電話の概要

Cisco IP 電話は機能が充実した電話機であり、IP ネットワークを介して音声通信を提供します。この機能を提供するために、IP 電話は、Unified Communications Manager、DNS と DHCP サーバ、TFTP サーバ、メディアリソース、Cisco Power over Ethernet (PoE) など、他の重要な Cisco Unified IP テレフォニーおよびネットワーク コンポーネントとやり取りします。これらの IP 電話は、デジタル ビジネス電話と同様に機能し、コールの発信や着信のほか、ミュート、保留、転送、短縮ダイヤル、コール転送などの機能も利用できます。また、Cisco IP 電話はデータネットワークに接続されているため、ネットワーク情報やサービスへのアクセス、カスタマイズ可能な機能やサービスなど、IP 電話機能が強化されています。ファイル認証、デバイス認証、シグナリングの暗号化、メディアの暗号化などのセキュリティ機能もサポートします。

この章では、電話機を設定してシステムで使用できるようにする方法について説明します。コールパーク、コール転送、話中ランプ フィールド (BLF)、コール ピックアップ、短縮ダイヤルなどの機能を設定するには、『*Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド*』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html>) を参照してください。

Cisco IP 電話の設定タスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	電話機の設定 (3 ページ)	SIP または SCCP の電話機を設定するには、このタスクを実行します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	EnergyWise の設定 (9 ページ)	電力消費量を減らすには、電話機を電源切断(スリープ)および電源投入(スリープ解除)用に自動的に設定します。
ステップ 3	クライアント サービス フレームワーク デバイスの設定 (11 ページ)	次の手順を実行して、クライアントサービスフレームワークデバイスを設定します。Cisco Unified Client Services Framework デバイスは、次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Communications Integration for Microsoft Office Communicator • Cisco Unified Communications Integration for Webex Connect • Cisco Unified Personal Communicator (Release 8.0 以降)
ステップ 4	CTI リモート デバイスの設定 (14 ページ)	次の手順を実行して、CTI リモートデバイスを設定します。CTI リモート デバイスは、ユーザが Cisco UC アプリケーションと一緒に使用できるオフクラスタ電話を代表するデバイス タイプです。デバイス タイプには、1 つ以上の回線 (ディレクトリ番号) と 1 つ以上のリモート接続先が設定されます。
ステップ 5	Cisco Spark リモート デバイスの設定 (21 ページ)	次の手順を実行して、Cisco Webex リモートデバイスを設定します。Cisco Webex リモートデバイスは、ユーザが Cisco UC アプリケーションで使用できる Cisco Webex クライアントを表します。このデバイス タイプでは、設定されたリモート接続先に対して、複数のアクティブコールを行うことができます。 <p>Cisco Spark リモートデバイスには、次の場合を除き、強化されたライセンスが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Spark リモート デバイスのオーナーのユーザ ID に IP 電話 または Jabber クライアントを割り当てる際、1 つの Enhanced ライセン

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>スが両方のデバイスで使用されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Spark リモート デバイスのオーナーのユーザ ID に、TelePresence デバイスも割り当てる際、1 つの TelePresence ライセンスが両方のデバイスで使用されている。 <p>注意 Cisco Spark リモート デバイスは、シスコのクラウドサービスにオンプレミス環境を接続する場合にのみ使用できます。その他の目的で、このリモート デバイスを使用することはできません。</p>
ステップ 6	電話データの移行 (27 ページ)	別の電話に移行し、古い電話を使用する必要がなくなった場合は、次の手順を実行します。

電話機の設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>SIP 電話を設定するには、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SIP 電話のセキュア ポートの設定 (4 ページ) • サービスの再起動 (5 ページ) • SIP プロファイルの設定 (5 ページ) • 電話機のセキュリティ プロファイルの設定 • 電話の設定 (7 ページ) • Cisco IP 電話サービスの設置 (8 ページ) • VPNクライアントの設定。 	<p>Session Initiation Protocol (SIP) を使用する電話機がある場合、この手順を実行します。SIPは、電話と他のネットワークコンポーネント間の主要なインタフェースを提供します。SIPに加えて、IPアドレスの割り当てに使用するDHCP、ドメイン名の解決に使用するDNS、イメージと構成データをダウンロードするTFTPなど、さまざまな機能に使用されています。</p> <p>VPN クライアントの設定に関する詳細な手順については、『Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド』 (http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/)</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html を参照してください。
ステップ 2	<p>SCCP電話を設置するには、次の手順に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話機のセキュリティ プロファイルの設定 • 電話の設定 (7 ページ) • Cisco IP 電話サービスの設置 (8 ページ) • VPNクライアントの設定。 	<p>Skinny Client 制御プロトコル (SCCP) を使用している Cisco IP Phone を設定する場合は、次の手順を実行します。SCCP は、IP デバイスと Cisco Unified Communication Manager 間で、シスコ独自のメッセージを使用して通信します。複数プロトコル環境でも SCCP は簡単に共存できます。登録時、Cisco Unified IP Phone は Cisco Unified Communication Manager から回線などの設定すべてを受信します。</p> <p>VPN クライアントの設定に関する詳細な手順については、『<i>Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド</i>』（http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html）を参照してください。</p>

次のタスク

電源の供給、ネットワーク接続の検証、Cisco Unified IP Phone のネットワーク設定を実行します。ネットワーク設定の詳細は、ご使用の Cisco Unified IP Phone のモデルの『*Cisco Unified IP Phone アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

SIP 電話のセキュア ポートの設定

ポートを設定するには、次の手順に従います。Cisco Unified Communications Managerはこのポートを使用して SIP 回線の登録用の SIP 電話を TLS を介してリッスンします。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [Cisco Unified CM (Cisco Unified CM)] を選択します。

ステップ 2 [このサーバのCisco Unified Communications Manager TCPポート設定 (Cisco Unified Communications Manager TCP Port Settings for this Server)] で、[SIP電話セキュアポート (SIP Phone Secure Port)] フィールドにポート番号を指定するか、またはデフォルト値をそのまま使用します。デフォルト値は5061です。

- ステップ3 [保存 (Save)]をクリックします。
 - ステップ4 [設定の適用 (Apply Config)]をクリックします。
 - ステップ5 [OK] をクリックします。
-

サービスの再起動

Cisco CallManager サービスと Cisco CTL Provider サービスを再起動するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ1 Cisco Unified Serviceability インターフェイスで、[ツール (Tools)]>[コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)]を選択します。
 - ステップ2 [サーバ (Servers)] ドロップダウンリストから、[Cisco Unified Communications Manager] サーバを選択します。
CMの[サービス (Services)]領域で、[サービス名 (Service Name)]列に Cisco CallManager が表示されます。
 - ステップ3 Cisco CallManager サービスに対応するラジオ ボタンをクリックします。
 - ステップ4 [再起動 (Restart)]をクリックします。
サービスが再起動し、「サービスは正常に再起動しました (Service Successfully Restarted) 」というメッセージが表示されます。
 - ステップ5 手順3 と手順4 を繰り返して、Cisco CTL Provider サービスを再起動します。
-

SIP プロファイルの設定

AS-SIP エンドポイントと SIP トランクの SIP プロファイルを、SIP 設定を使用して設定するには、次の手順を使用します。

始める前に

- [SIP 電話のセキュア ポートの設定 \(4 ページ\)](#)
- [サービスの再起動 \(5 ページ\)](#)

手順

- ステップ1 Cisco Unified CM Administration で、[デバイス (Device)]>[デバイスの設定 (Device Settings)]>[SIP プロファイル (SIP Profile)]を選択します。
- ステップ2 [検索 (Find)] をクリックします。

- ステップ 3** プロファイルをコピーする場合は、[コピー (Copy)] 列のファイルアイコンをクリックします。
- ステップ 4** 新しいプロファイルの名前と説明を入力します。
- ステップ 5** IPv6 スタックが構成されていて、2つのスタックを展開する場合は、[ANATを有効化 (Enable ANAT)] チェックボックスをオンにします。
- (注) この設定は、Unity Connection を展開しているかどうかに応用されます。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[電話機のセキュリティ プロファイルの設定](#)

電話機のセキュリティ プロファイルの設定

エンドポイントの TLS シグナリング、CAPF、ダイジェスト認証の要件などのセキュリティ機能を有効にする場合は、エンドポイントに適用できる新しいセキュリティプロファイルを設定する必要があります。



- (注) デフォルトでは、プロビジョニングされたデバイスに SIP 電話セキュリティプロファイルを適用しない場合、デバイスは非セキュアプロファイルを使用します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [セキュリティ (Security)] > [電話セキュリティプロファイル (Phone Security Profile)] の順に選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [電話のセキュリティプロファイルのタイプ (Phone Security Profile Type)] ドロップダウンリストから [ユニバーサルデバイステンプレート (Universal Device Template)] を選択し、デバイステンプレートを使用してプロビジョニングする際に使用できるプロファイルを作成します。
- (注) 必要に応じて、特定のデバイス モデルのセキュリティ プロファイルを作成することもできます。
- ステップ 4** プロトコルを選択します。
- ステップ 5** [名前 (Name)] フィールドにプロファイルの適切な名前を入力します。
- ステップ 6** TLS シグナリングを使用してデバイスに接続する場合は、[デバイスのセキュリティモード (Device Security Mode)] を [認証済み (Authenticated)] または [暗号化 (Encrypted)] に設定し、[トランスポートタイプ (Transport Type)] を [TLS] に設定します。

- ステップ 7** (任意) 電話でダイジェスト認証を使用する場合は、[OAuth認証の有効化 (Enable OAuth Authentication)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 8** (任意) 暗号化された TFTP を使用する場合は、[TFTP暗号化設定 (TFTP Encrypted Config)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 9** [電話のセキュリティプロファイルの設定 (Phone Security Profile Configuration)] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 10** [保存 (Save)] をクリックします。

電話の設定

Cisco Unified Communications Manager データベースに電話を手動で追加するには、次の手順を実行します。自動登録を使用している場合は、次の手順を実行する必要はありません。自動登録を選択すると、Cisco Unified Communications Manager が自動的に電話を追加し、電話番号を割り当てます。自動登録の有効化の詳細については、「[自動登録の設定タスクフロー](#)」を参照してください。

始める前に

- [電話用 NTP リファレンスの設定](#)
- [電話機のセキュリティプロファイルの設定](#)
- [日時グループの追加](#)
- [SIP ダイアルルールの設定](#) (SIP 電話を設定する場合)

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [電話タイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストから、該当する Cisco IP Phone モデルを選択します。
- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** [デバイス プロトコルの選択 (Select the device protocol)] ドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。
- **SCCP**
 - **SIP**
- ステップ 6** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 7** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

(注) セキュリティプロファイルで設定されている CAPF 設定は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに表示される Certificate Authority Proxy Function の設定に関係するものです。製造元でインストールされる証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) に関連する証明書操作の CAPF 設定を設定する必要があります。電話の設定ウィンドウで更新する CAPF 設定がセキュリティプロファイルの CAPF 設定に与える影響の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。

- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 9** [関連付け (Association)] エリアで、[回線 [1] - 新規 DN を追加 (Line [1] - Add a new DN)] をクリックします。
- ステップ 10** [ディレクトリ番号 (Directory Number)] フィールドに、電話に関連付ける電話番号を入力します。
- ステップ 11** [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

SIP または SCCP 電話の場合：

[Cisco IP 電話サービスの設置 \(8 ページ\)](#)

Cisco IP 電話サービスの設置

企業のディレクトリ、ビジュアルボイスメール、天気予報などの電話サービスを Cisco IP Phone に提供する場合は、Cisco IP Phone 用のサービスを設定します。Cisco Unified Communications Manager とともに自動でインストールされるデフォルトの IP 電話サービスを利用できます。サイト用にカスタムの Cisco IP 電話サービスを作成することもできます。Unified Communications Manager でカスタマイズされたサービスを設定するには、次の手順を実行します。

始める前に

[電話の設定 \(7 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話サービス (Phone Services)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加] をクリックします。
- ステップ 3** [IP 電話サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク

- エンタープライズサブスクリプションとしてサービスが分類されていない場合は、データベースで電話にサービスを追加します。Bulk Administrative Tool (BAT) または Cisco Unified Communications セルフ ケア ポータルを使用して電話にサービスを追加できます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 一括管理ガイド』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>) および『Cisco Unified Communications セルフ ケア ポータル ユーザ ガイド』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-user-guide-list.html>) を参照してください。
- 電話ボタンにサービスを割り当てることができます (電話モデルがこれらのボタンをサポートする場合)。サービスの割り当ての詳細については、ご使用の電話モデルの『Cisco IP 電話 ユーザ ガイド』を参照してください。
- VPN クライアントを設定します (任意)。

EnergyWise の設定

始める前に

- システムに EnergyWise コントローラが含まれることを確認します。たとえば、Cisco 製スイッチは有効な EnergyWise 機能を備えています。
- 使用している電話機モデルが EnergyWise 機能をサポートするかどうかを確認するには、電話機モデルのユーザ マニュアルを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
 - ステップ 2** 検索条件を指定して、[検索 (Find)] をクリックします。
Cisco Unified Communications Manager で設定されている電話機の一覧が表示されます。
 - ステップ 3** EnergyWise 機能を設定する電話を選択します。
 - ステップ 4** [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションの EnergyWise 関連フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、「関連項目」の項を参照してください。
 - ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
-

EnergyWise の設定フィールド

表 1: EnergyWise の設定フィールド

フィールド	説明
[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)]	電話機の電源を自動的にオフにする曜日を選択します。Ctrlキーを押しながら複数の日数を選択し、スケジュールされた日数をクリックすることができます。 デフォルトでは、どの日も選択されていません。
[電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)]	このフィールドには、時刻を24時間形式で入力します (00:00 は午前0時)。 Power Save Plusの有効化 フィールドで選択した日について、電話機の電源を自動的にオンにする時刻を決定します。 (注) 電話機をウェイク時間の前に復帰させるには、電話機の電源をスイッチからオンにする必要があります。詳細については、スイッチのマニュアルを参照してください。
[電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)]	このフィールドには、時刻を24時間形式で入力します (00:00 は午前0時)。 Power Save Plusの有効化 フィールドで選択した日について、電話機の電源を自動的にオンにする時刻を決定します。電話機をオンにする時刻フィールドと電話機をオフにする時刻フィールドに同じ値が含まれている場合、電話機はオフになりません。
[電話機をオフにするアイドルタイムアウト (Phone Off Idle Timeout)]	電話機の電源を切るまでの、アイドル状態である必要のある期間を指定します。20分から1440分の任意の値を指定できます。デフォルト値は60分です。
[音声アラートを有効にする (Enable Audio Alert)]	このチェックボックスをオンにして、電話が電話を切る時間フィールドで指定した時間より10分前、7分前、4分後、30秒前に音声アラームを再生するように指示します。このチェックボックスは、 Power Save Plus の有効化 リストボックスが1日以上選択されている場合にのみ使用できます。

フィールド	説明
[EnergyWise ドメイン (EnergyWise Domain)]	電話機がある EnergyWise ドメインを指定します。許容される最大長は 127 文字です。
[EnergyWise シークレット (EnergyWise secret)]	EnergyWise ドメイン内のエンドポイントとの通信に使用するセキュリティ秘密パスワードを指定します。許容最大長は 127 文字です。
[EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)]	Power Save Plus を無効にするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、EnergyWise ドメイン コントローラ ポリシーによって、[電源をオンにする時刻 (Power On Time)] および [電源をオフにする時刻 (Power Off Time)] の値がオーバーライドされます。 (注) [Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] フィールドで、日数を選択しないまま [EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)] チェックボックスをオンのままにしておくと、Power Save Plus は無効になりません。

クライアント サービス フレームワーク デバイスの設定

次の手順を実行して、クライアントサービスフレームワークデバイスを設定します。Cisco Unified Client Services Framework デバイスは、次のいずれかになります。

- Cisco Unified Communications Integration for Microsoft Office Communicator
- Cisco Unified Communications Integration for Webex Connect
- Cisco Unified Personal Communicator (Release 8.0 以降)

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	クライアント サービス フレームワーク デバイスの追加 (12 ページ)	クライアントサービスフレームワークを使用するデバイスを追加します。
ステップ 2	エンドユーザとデバイスの関連付け (13 ページ)	エンドユーザーアカウントをクライアントサービスフレームワークに関連付けます。

クライアント サービス フレームワーク デバイスの追加

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストから、[Cisco Unified Client Services Framework] を選択します。
- ステップ 4 [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、「関連項目」の項を参照してください。
- ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7 [関連付け (Association)] エリアで、[回線 [1] - 新規 DN を追加 (Line [1] - Add a new DN)] をクリックします。
- ステップ 8 [ディレクトリ番号 (Directory Number)] フィールドに、クライアント サービス フレームワーク デバイスに関連付ける電話番号を入力します。
- ステップ 9 [保存 (Save)] をクリックします。

クライアント サービス フレームワーク デバイスの設定フィールド

表 2: クライアント サービス フレームワーク デバイスの設定フィールド

フィールド	説明
[デバイス名 (Device Name)]	<p>クライアント サービス フレームワーク デバイスを識別する名前を入力します。この名前には、最長 15 文字の英数字を指定することができます。スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて含めることが可能です。</p> <p>(注) Cisco Unified Personal Communicator のデバイス名を設定する場合は、名前が UPC で始まっていることを確認します。</p>
[説明 (Description)]	<p>デバイスの簡単な説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。</p>

フィールド	説明
[デバイスプール (Device Pool)]	このデバイスを割り当てるデバイスプールを選択します。
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	[標準クライアントサービスフレームワーク (Standard Client Services Framework)]を選択します。
[オーナーのユーザID (Owner User ID)]	割り当てられたクライアントサービスフレームワーク デバイスのユーザのユーザ ID を選択します。ユーザ ID は、呼詳細レコード (CDR) で、このデバイスから発信されるすべてのコールに対して記録されます。
[デバイスのセキュリティプロファイル (Device Security Profile)]	[Cisco Unified Client Services Framework : 標準非セキュアプロファイル (Cisco Unified Client Services Framework - Standard SIP Non-secure Profile)]を選択します。
[SIPプロファイル (SIP Profile)]	[標準SIPプロファイル (Standard SIP Profile)]を選択します。

エンドユーザとデバイスの関連付け

クライアント サービス フレームワーク デバイスにエンドユーザを関連付けるには、この手順を使用します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[ユーザの管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックして、デバイスに関連付けるユーザを選択します。
- ステップ 3 [デバイス情報 (Device Information)] セクションで、[デバイスの関連付け (Device Association)] を選択します。
[ユーザデバイス割り当て (User Device Association)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4 [検索 (Find)] をクリックすると、使用可能なデバイスのリストが表示されます。
- ステップ 5 関連付けるデバイスを選択して、[選択/変更の保存 (Save Selected/Changes)] をクリックします。
- ステップ 6 [関連リンク (Related Links)] から、[ユーザの設定に戻る (Back to User)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示され、選択し、割り当てたデバイスが、[制御するデバイス (Controlled Devices)] ペインに表示されます。

CTI リモート デバイスの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	CTI リモート デバイスの設定 (14 ページ)	CTI リモート デバイスを作成します。
ステップ 2	デバイスへのディレクトリ番号の追加 (18 ページ)	CTI リモート デバイスを登録するには、そのデバイスに電話番号を追加する必要があります。
ステップ 3	リモート接続先の設定 (19 ページ)	最大4つの一意のリモート接続先を設定して、CTI リモート デバイスに関連付けることができます。

CTI リモート デバイスの設定

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストから [CTI リモート デバイス (CTI Remote Device)] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、「関連項目」の項を参照してください。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
-

CTI リモート デバイス設定フィールド

CTI リモート デバイス情報

表 3: [デバイス情報 (Device Information)]

フィールド	説明
[登録 (Registration)]	CTI リモート デバイスの登録ステータスを指定します。
[デバイスの状態 (Device Status)]	デバイスがアクティブか非アクティブかを指定します。
[デバイスの信頼性 (Device Trust)]	デバイスが信頼できるかどうかを指定します。

フィールド	説明
[アクティブなリモート接続先 (Active Remote Destination)]	アクティブなリモート接続先かどうかを指定します。CTI クライアントは、任意の1つの時点で1つのリモート接続先を指定できます。着信コールと Dial via Office (DVO) コールは、アクティブなリモート接続先に転送されます。
[オーナーのユーザーID (Owner User ID)]	ドロップダウンリストから、割り当てられた電話ユーザーのユーザー ID を選択します。ユーザー ID は、このデバイスから発信されるすべてのコールの呼詳細レコード (CDR) に記録されます。
[デバイス名 (Device Name)]	所有者のユーザー ID に基づいて自動的に入力される CTI のリモート デバイスの名前を指定します。 デバイス名の形式は、デフォルトで <i>CTIRD<OwnerUserID></i> です。 このフィールドは編集できます。デバイス名には最大 15 文字を含めることができます。使用できる文字は、英字、数字、ダッシュ (-)、ピリオド、スペース、およびアンダースコアです。
[説明 (Description)]	CTI リモート デバイスの説明テキストを入力します。 このフィールドには、128 文字までの値を入力できます。二重引用符 (")、山カッコ (< >)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&)、パーセント記号 (%) を除くすべての文字を使用できます。
[デバイスプール (Device Pool)]	CTI のリモート デバイスの一般的な特性を定義するデバイス プールを選択します。 デバイスプールの設定方法の詳細については、「デバイス プールの構成時の設定」を参照してください。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	ドロップダウンリストを使用から、コーリングサーチスペースを選択するか、コーリングサーチスペースをデフォルトの [なし (None)] のままにします。

フィールド	説明
[ユーザー保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	ドロップダウン リストから、ユーザーが保留操作を開始する場合に保留音 (MOH) として使用するオーディオ ソースを選択します。
[ネットワーク保留MOH音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	ドロップダウン リストから、ネットワークが保留操作を開始したときの MOH に使用するオーディオ ソースを選択します。
[ロケーション (Location)]	ドロップダウンリストから、デバイスプール内の電話およびゲートウェイと関連付けられている場所を選択します。
[発信側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]	この設定により、デバイスの発信者番号をローカライズできます。選択した発信側トランスフォーメーションCSSに、このデバイスプールに割り当てる発信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。
[プレゼンテーションインジケータを無視 (内線コールのみ) (Ignore Presentation Indicators (internal calls only))]	コール単位でコール表示制限を設定する場合には、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified CM は内線コールに対して受信したすべての表示制限を無視します。

[コールルーティング情報 (Call Routing Information)]

表 4: 着信/発信コール情報

フィールド	説明
[発信側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]	この設定により、デバイスの発信者番号をローカライズできます。選択した発信側トランスフォーメーションCSSに、このデバイスに割り当てる発信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。
[デバイスプールの発信側トランスフォーメーションCSSを使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	このデバイスに割り当てられているデバイスプールに設定されている発信側トランスフォーメーションCSSを使用する場合は、このボックスをオンにします。このチェックボックスを選択しない場合、デバイスは[トランク設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで設定した発信側変換CSSを使用します。

表 5:[プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)]

フィールド	説明
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>このフィールドは、プレゼンス機能に対して設定します。</p> <p>このアプリケーション ユーザーをプレゼンス機能とともに使用していない場合は、プレゼンス グループの設定をデフォルトの [なし (None)]のままにします。</p> <p>ドロップダウンリストから、アプリケーションユーザーのプレゼンスグループを選択します。選択したグループは、IPMASysUser などのアプリケーションユーザーがモニターする宛先を指定します。</p>
[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能によってサポートされる SUBSCRIBE コーリングサーチスペースは、Cisco Unified Communications Manager がエンドユーザーから発信されたプレゼンス要求をルーティングする方法を決定します。この設定では、エンドユーザーのプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求のコール処理サーチスペースと別にコーリングサーチスペースを適用できます。</p> <p>ドロップダウンリストから、エンドユーザーのプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリングサーチスペースを選択します。Cisco Unified Communications Manager Administration で設定するすべてのコーリングサーチスペースが、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]ドロップダウンリストに表示されます。</p> <p>ドロップダウンリストから、エンドユーザーに別のコーリングサーチスペースを選択しない場合、SUBSCRIBE コーリングサーチスペースのデフォルトは [なし (None)]に設定されます。</p> <p>この目的専用の SUBSCRIBE コーリングサーチスペースを設定するには、他のコーリングサーチスペースと同様に新しいコーリングサーチスペースを設定します。</p>

フィールド	説明
[再ルーティング用コーリングサーチスペース (Rerouting Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リストから、再ルーティングに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>リファラーの再ルーティングコーリングサーチスペースを使用して、参照先へのルートが検索されます。再ルーティングコーリングサーチスペースが原因で参照メッセージが失敗すると、Refer Primitive は「405 Method Not Allowed」メッセージを表示して要求を拒否します。</p> <p>リダイレクト (3xx) プリミティブおよび転送機能も再ルーティングコーリングサーチスペースを使用して、リダイレクト先または転送先を検索します。</p>

表 6: サイレント情報

フィールド	説明
[サイレント (Do Not Disturb)]	リモートデバイスのサイレント機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[DNDオプション (DND Option)]	電話機で DND を有効にすると、[着信拒否 (Call Reject)] オプションの指定により、着信コール情報がユーザーに表示されなくなります。[DND着信コール警告 (DND Incoming Call Alert)] パラメータの設定に応じて、電話はビープを再生するか、コールの点滅通知を表示します。

デバイスへのディレクトリ番号の追加

CTI リモートデバイスを登録するには、そのデバイスにディレクトリ番号を追加する必要があります。ディレクトリ番号のない CTI リモートデバイスを登録することはできません。CTI リモートデバイスには最大 5 つのディレクトリ番号を追加できます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2 フィルタ条件を指定して、ディレクトリ番号を関連付ける CTI リモート デバイスをクリックします。

- ステップ 3** [関連付け (Association)] ペインで、[新規DNを追加 (Add a new DN)] リンクをクリックします。
- ステップ 4** [ディレクトリ番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

リモート接続先の設定

CTI リモートデバイスには、1つ以上のリモート送信先を設定できます。リモート接続先とは、リモート接続先ピックアップ (ユーザのデスクの電話機から転送を受け入れる) を実行し、Cisco Unified Mobility の着信コールを受け入れるように、設定できるモバイルなどの電話機です。CTI のリモート デバイスに関連付けられているリモート接続先では、リモート デバイスに到達するための電話番号を指定します。CTI のリモート デバイスに設定可能なリモート接続先の最大数は、オーナーのユーザ ID に設定されたリモート接続先の制限値で決まります。

リモート接続先には、次のいずれかのデバイスを含めることができます。

- シングルモード携帯 (セルラー) 電話
- スマートフォン
- デュアルモード電話
- デスクの電話機と同じクラスタにない社内の IP 電話
- PSTN 内の自宅の電話番号

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、**デバイス > 電話 > CTI リモートデバイス > 関連付けられたリモート接続先** を選択します。
- ステップ 2** フィルタ条件を指定し、リモート通知先を設定する CTI リモートデバイスをクリックします。
- ステップ 3** 関連付けられたリモート接続先区画で**新規リモート接続先の追加**を選択します。
- 別の方法として、**デバイス > 電話 > 機 [新しいメニューの追加 (Add New)]** を使用してリモート通知先を設定することもできます。
- ステップ 4** **リモート接続先の設定** ウィンドウでフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、「関連項目」の項を参照してください。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

リモート接続先の設定フィールド

表 7: リモート接続先の設定フィールド

フィールド	説明
名前	リモート宛先の名前を入力します。
[宛先番号 (Destination Number)]	企業内でダイヤルする番号を入力します。市外局番、および外線の取得に必要な追加番号を含めてください。フィールドの最大長は24文字です。値には、0~9の数字、*、#、および+を入力できます。リモート接続先の発信者IDを設定することを推奨します。
[オーナーのユーザID (Owner User ID)]	ドロップダウンリストから、リモート通知先の所有者を選択します。
[Unified Mobility 機能を有効にする (Enable Unified Mobility features)]	Unified Mobility機能を有効にするチェックボックスをオンにします。
[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]	[設定 (From)] ドロップダウンリストで、設定したプロファイルを選択します。
[シングル ナンバー リーチを有効にする (Enable Single Number Reach)]	チェックボックスをオンにして、リモートの通知先に対して単一の Number_Reach を有効にします。
[携帯電話への移動を有効にする (Enable Move to Mobile)]	これはオプションのフィールドです。この電話が携帯電話の場合は、このチェックボックスをオンにします。

Cisco Spark リモート デバイスの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Cisco Spark リモート デバイスの設定 (21 ページ)	Cisco Spark リモート デバイスを作成します。
ステップ 2	Cisco Spark デバイスへのディレクトリ番号の追加 (27 ページ)	Cisco Spark リモート デバイスを登録するには、そのデバイスに電話番号を追加する必要があります。

Cisco Spark リモート デバイスの設定

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストから、[Cisco Spark リモート デバイス (Cisco Spark Remote Device)] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、「関連項目」の項を参照してください。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

Cisco Spark リモート デバイス設定フィールド

表 8: Webex リモート デバイス設定フィールド

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[登録 (Registration)]	Webex リモート デバイスの登録ステータスを指定します。
[デバイスの状態 (Device Status)]	デバイスがアクティブか非アクティブかを指定します。
[デバイスの信頼性 (Device Trust)]	デバイスを信頼できるか信頼できないかを指定します。
[アクティブなリモート接続先 (Active Remote Destination)]	リモート接続先がアクティブであるかどうかを指定します。デフォルトでは、Webex クライアントのアクティブなリモート接続先は 1 つだけです。着信コールはすべてアクティブなリモート接続先にルーティングされます。このフィールドは、アクティブなリモート接続先に関連付けられている場合でも [なし (None)] に設定されます。
[オーナーのユーザーID (Owner User ID)]	ドロップダウンリストから、割り当てられた電話ユーザーのユーザー ID を選択します。ユーザー ID は、このデバイスから発信されるすべてのコールの呼詳細レコード (CDR) に記録されます。

フィールド	説明
[デバイス名 (Device Name)]	<p>[オーナーのユーザー ID (Owner User ID)] に基づいて自動的に入力される Webex リモートデバイスの名前を使用します。</p> <p>デフォルトでは、デバイス名の形式は <i>SparkRD</i><オーナーユーザーID> です。デフォルトのデバイス名 <i>SparkRD</i> は変更できません。</p> <p>このフィールドは編集できます。デバイス名には最大 15 文字を含めることができます。使用できる文字は、英字、数字、ダッシュ (-)、ピリオド、スペース、およびアンダースコアです。</p>
[説明 (Description)]	<p>Webex リモートデバイスの説明テキストを入力します。</p> <p>このフィールドには、128 文字までの値を入力できます。二重引用符 (")、山カッコ (< >)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&)、パーセント記号 (%) を除くすべての文字を使用できます。</p>
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>Webex リモートデバイスの共通の特性を定義するデバイスプールを選択します。</p> <p>デバイスプールの設定方法の詳細については、「デバイスプールの構成時の設定」を参照してください。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリストを使用から、コーリングサーチスペースを選択するか、コーリングサーチスペースをデフォルトの [なし (None)] のままにします。</p>
[ユーザー保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	<p>ドロップダウンリストから、ユーザーが保留操作を開始したときの保留音 (MOH) に使用するオーディオソースを選択します。</p> <p>注意 現在、Cisco Spark リモートデバイスには保留/復帰機能が実装されていないため、MOH はサポートされていません。</p>

フィールド	説明
[ネットワーク保留MOH音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	ドロップダウンリストから、ネットワークが保留操作を開始したときの MOH に使用するオーディオソースを選択します。 注意 現在、Cisco Spark リモートデバイスには保留/復帰機能が実装されていないため、MOH はサポートされていません。
[ロケーション (Location)]	ドロップダウンリストから、デバイスプール内の電話およびゲートウェイと関連付けられている場所を選択します。
[発信側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]	この設定により、デバイスの発信者番号をローカライズできます。選択した発信側トランスフォーメーションCSSに、このデバイスプールに割り当てる発信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。
[プレゼンテーションインジケータを無視 (内線コールのみ) (Ignore Presentation Indicators (internal calls only))]	コール単位でコール表示制限を設定する場合に、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified CM は内線コールに対して受信したすべての表示制限を無視します。
[コールルーティング情報 (Call Routing Information)]	
[着信コールと発信コールの情報 (Inbound and Outbound Calls Information)]	
[発信側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]	この設定により、デバイスの発信者番号をローカライズできます。選択した発信側トランスフォーメーションCSSに、このデバイスに割り当てる発信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。
[デバイスプールの発信側トランスフォーメーションCSSを使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	このデバイスに割り当てられているデバイスプールに設定されている発信側トランスフォーメーションCSSを使用する場合は、このボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合、デバイスは[トランクの設定 (Trunk Configuration)] ウィンドウで設定した発信側トランスフォーメーションCSSを使用します。

フィールド	説明
[プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)]	
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>このフィールドは、プレゼンス機能に対して設定します。</p> <p>このアプリケーションユーザーをプレゼンス機能とともに使用していない場合は、プレゼンスグループの設定をデフォルトの [なし (None)] のままにします。</p> <p>ドロップダウンリストから、アプリケーションユーザーのプレゼンスグループを選択します。選択したグループは、IPMASysUser などのアプリケーションユーザーがモニターする宛先を指定します。</p> <p>注意 現在、プレゼンスグループは Cisco Spark リモート デバイスではサポートされていません。</p>

フィールド	説明
[SUBSCRIBE コーリング検索スペース (AAR Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能によってサポートされる SUBSCRIBE コーリング検索スペースによって、Cisco Unified Communications Manager がエンドユーザーから発信されるプレゼンス要求をルーティングする方法が決まります。この設定では、エンドユーザーのプレゼンス (SUBSCRIBE) 要求のコール処理検索スペースと別にコーリング検索スペースを適用できます。</p> <p>ドロップダウンリストから、エンドユーザーのプレゼンス要求に使用する SUBSCRIBE コーリング検索スペースを選択します。Cisco Unified Communications Manager Administration で設定するすべてのコーリング検索スペースが、[SUBSCRIBE コーリング検索スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウンリストに表示されます。</p> <p>ドロップダウンリストから、エンドユーザーに別のコーリング検索スペースを選択しない場合、SUBSCRIBE コーリング検索スペースのデフォルトは [なし (None)] に設定されます。</p> <p>この目的専用の SUBSCRIBE コーリング検索スペースを設定するには、他のコーリング検索スペースと同様に新しいコーリング検索スペースを設定します。</p> <p>注意 現在、SUBSCRIBE コーリング検索スペースは Cisco Spark リモートデバイスではサポートされていません。</p>

フィールド	説明
[再ルーティング用コーリングサーチスペース (Rerouting Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リストから、再ルーティングに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>リファラーの再ルーティングコーリングサーチスペースを使用して、参照先へのルートが検索されます。再ルーティングコーリングサーチスペースが原因で参照メッセージが失敗すると、Refer Primitive は「405 Method Not Allowed」メッセージを表示して要求を拒否します。</p> <p>リダイレクト (3xx) プリミティブおよび転送機能も再ルーティングコーリングサーチスペースを使用して、リダイレクト先または転送先を検索します。</p>
[サイレントの情報 (Do Not Disturb Information)]	
[サイレント (Do Not Disturb)]	<p>リモートデバイスのサイレント機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>注意 DND オプションが有効になっている場合、コールは Cisco Spark クライアントにはルーティングされません。</p> <p>注意 現在、サイレント機能は Cisco Spark リモートデバイスではサポートされていません。</p>
[DNDオプション (DND Option)]	<p>電話機で DND を有効にすると、[着信拒否 (Call Reject)] オプションの指定により、着信コール情報がユーザーに表示されなくなります。[DND着信コール警告 (DND Incoming Call Alert)]パラメータの設定に応じて、電話はビープを再生するか、コールの点滅通知を表示します。</p> <p>注意 現在、サイレント機能は Cisco Spark リモートデバイスではサポートされていません。</p>

Cisco Spark デバイスへのディレクトリ番号の追加

Webex リモート デバイスを登録するには、そのデバイスにディレクトリ番号を追加します。ディレクトリ番号のない Webex リモート デバイスを登録することはできません。Webex リモート デバイスには最大 5 つのディレクトリ番号を追加できます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2 フィルタの条件を指定して、ディレクトリ番号を関連付ける Cisco Spark のリモート デバイスをクリックします。
- ステップ 3 [関連付け (Association)] ペインで、[新規DNを追加 (Add a new DN)] リンクをクリックします。
- ステップ 4 [ディレクトリ番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

電話データの移行

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	電話テンプレートの作成 (27 ページ)	一括管理ツール(BAT)で、データを移行する電話番号とプロトコルの電話テンプレートを作成します。
ステップ 2	電話データの移行 (28 ページ)	電話機のデータを別の電話に移行します。

電話テンプレートの作成

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[新しい電話テンプレートの追加 (Add a New Phone)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ3** 電話タイプのドロップダウンリストから、テンプレートを作成する電話機モデルを選択します。[次へ (Next)]をクリックします。
- ステップ4** **デバイスプロトコルの選択**のドロップダウンリストから、デバイスのプロトコルを選択します。[次へ (Next)]をクリックします。
電話テンプレートの設定ウィンドウが、選択したデバイスタイプのフィールドとデフォルトエントリと共に表示されます。
- ステップ5** 電話の設定ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ6** [保存 (Save)]をクリックします。
-

電話データの移行

始める前に

- 電話機をネットワークから切り離します。
- 新しい電話について、十分なデバイス ライセンス ユニットがあることを確認します。
- 電話機モデルが電話移行をサポートしていることを確認します。

手順

- ステップ1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device)]>[電話 (Phone)]を選択します。
- ステップ2** 検索条件を指定して、[検索 (Find)]をクリックします。
- ステップ3** 移行する電話機の設定を選択してクリックします。
- ステップ4** **関連リンク**ドロップダウンリストから**電話の移行**を選択します。
[電話の移行設定 (Phone Migration Configuration)]ウィンドウが表示されます。
- ステップ5** ドロップダウンリストから、電話設定を移行する電話モデルの電話テンプレートを選択します。
- ステップ6** 設定の移行先とする新規 **Cisco Unified IP Phone** のメディアアクセスコントロール (MAC) アドレスを入力します。MACアドレスには、12桁の16進数文字を使用する必要があります。
- ステップ7** (オプション)新しい電話の説明を入力します。説明には、任意の言語で最大50文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。
- ステップ8** [保存 (Save)]をクリックします。
- ステップ9** 新しい電話機は機能が失われる可能性があるという警告が表示されたら、[OK] をクリックします。
-

次のタスク

新しい電話機をネットワークに接続し、デバイスを登録します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。